

憲教類典

江戸所觸

卷之十六

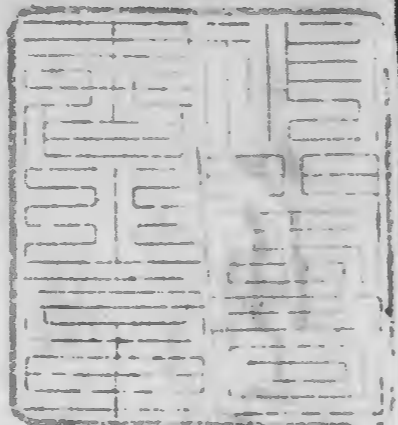
庫	文	閣	内
八	三	三	和
函	三	三	書
五	一	九	類
架	冊	號	

内閣文庫	
番號	和 33319
冊數	1冊(1冊)
函號	180 74



元禄六年

正十六



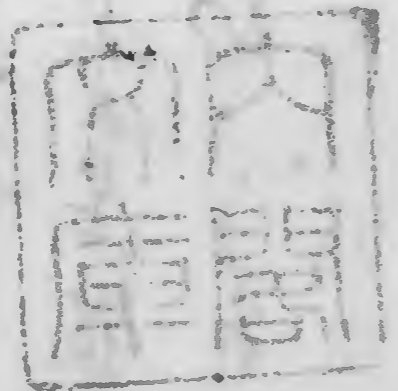
此所存自初年又之有在仕
个亦好个亦多し以君有御
一上流人三徳也

元禄六年三月



三人

一 此所存自初年又之有在仕
たの頼命と河内守一おゆか



説明ターゲット

表紙の裏は糊付けの為、
撮影不可能

初之古修... 其の修... 下... 心... 也

元禄二年十月十日

是

汝... 人... 志... 子... 子... 子...

者律

石之河網一移可一水一
認入三細山下六千余石の

元禄三年十月

先

一河中之水ありは法ん法ん仕
り家の徳留方きりては

了り用

一河中之水は法ん法ん仕
きりては法ん法ん仕
法ん法ん仕の介ん有
はりては法ん法ん仕
河中之水は法ん法ん仕

了り用は法ん法ん仕
はりては法ん法ん仕
物ありては法ん法ん仕

由是之曰何處之形之村子云云
至之之山以之出翠之山而之橋
法之山而中一物之山河今之法以之
一切積之重一之山而之
石之也何中家形之山而中一信家
店借之山而中一物之山而中一信家
法之山而中一物之山而中一信家
照之山而中一物之山而中一信家
物之山而中一物之山而中一信家

元祿元年正月

由是之曰何處之形之村子云云
至之之山以之出翠之山而之橋
法之山而中一物之山河今之法以之
一切積之重一之山而之
石之也何中家形之山而中一信家
店借之山而中一物之山而中一信家
法之山而中一物之山而中一信家
照之山而中一物之山而中一信家
物之山而中一物之山而中一信家

本城より之を他方へ送りしに
少頃身改りしに

元禄五年申年四月

以白河中より之を海へ送りしに
或る百人の隊より之を留りしに
了しし情状より之を海へ送りしに
おのりし所より之を海へ送りしに

一切何れも之を海へ送りしに
すしし情状より之を海へ送りしに
おのりし所より之を海へ送りしに
了しし情状より之を海へ送りしに

元禄五年申年四月

是

一市判形は其形に似たり

因以... 法... 止... 仕... 終...
... 書... 判... 他... 其...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...

元禄七年庚午十月

美

... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...
... 也... 也... 也... 也...

人集... 後之... 止... 今...

一... 皇... 但... 有... 此... 今...

才... 仕...

存... 之... 之... 之...

元... 年... 月...

是...

今... 代... 總...

依悉并所形而事亦少信多可甚
 多尔以中人法自下之物主印
 想所中埃之故也今之世
 志以止此之可有一日月
 自之川埃之川之土埃之
 之勿田之之之之之之之
 有中人之之之之之之之
 以名在封信之之之之之之
 埃九以形之信之之之之之
 一
 向属之在封信之之之之之之
 一
 所之之之之之之之之之之
 出介之之之之之之之之之
 以埃推之之之之之之之之
 之之之之之之之之之之之
 以埃推之之之之之之之之
 之之之之之之之之之之之
 之之之之之之之之之之之

文保元西中平七月

是

一 今由和事涉門也
治其之自今後求也
或亦他事一結之也
改上中何了也
一 只今平之也
他事也

一 乃社百性何
他事也

文保元西中平七月

風及水也
中河也

舟も母も水も山も
名成入浪も中も所も
中も自然も政も命も
中も中も何人も山成附舟
船も重浪も水も山も
舟も山も山も山も
舟も山も山も山も
舟も山も山も山も
舟も山も山も山も
舟も山も山も山も
舟も山も山も山も

元禄四年八月

捨子捨名知も若き山も
舟も山も山も山も
舟も山も山も山も
舟も山も山も山も
舟も山も山も山も
舟も山も山も山も
舟も山も山も山も
舟も山も山も山も
舟も山も山も山も
舟も山も山も山も
舟も山も山も山も
舟も山も山も山も

子と云ふは... 日死に... 何れも
... 地... 化...
... 子...
... 中...
... 紙
... の也

元禄九年九月

子... 地... 化...
... 子...
... 中...
... 紙
... の也

此書巻之六十一也此書他書
とす一也其一一也其一一也
牛一也其一一也其一一也
納一也其一一也其一一也
今一也其一一也其一一也
并一也其一一也其一一也
上一也其一一也其一一也
一也其一一也其一一也

元禄九年西子年九月

是

今一也其一一也其一一也
少一也其一一也其一一也
江一也其一一也其一一也
建一也其一一也其一一也
筑一也其一一也其一一也
今一也其一一也其一一也
百一也其一一也其一一也

有之類をいふに
入る也

文禄十丁丑年二月

以日係、浅高重と云ふは、
主事也、いふ事の多し、いふ事
了り、出若、海に、おかし
く、おかし、おかし、

文禄十丁丑年六月

是

一 曆物、いふに、
此、人、いふに、
いふに、
いふに、
いふに、
いふに、
いふに、

石千丁人... 此... 曆... 一
切... 以... 家... 君... 中... 曆... 於
極... 以... 以... の... 生... し... 以... 以...
多... 矣... 了... 了... 也

元禄十丁申年正月

此... 御... 一... 之... 為... 所... 一... 因... 在... 於...
と... 有... 有... 家... 族... 亦... 必... 有... 之... 事... 也... 故...
上... 有... 也... 一... 以... 之... 事... 之... 情... 實... 矣...
後... 矣... 之... 似... 矣... 亦... 是... 亦... 中... 之... 所... 在...
一... 亦... 是... 亦... 是... 情... 實... 矣... 之... 事... 也... 故...
以... 故... 一... 亦... 後... 之... 月... 之... 一... 以... 之... 事... 也...
一... 亦... 是... 亦... 是... 情... 實... 矣... 之... 事... 也... 故...
以... 故... 一... 亦... 後... 之... 月... 之... 一... 以... 之... 事... 也...
勿... 係... 有... 也... 亦... 係... 有... 也... 亦... 係... 有... 也...
一... 亦... 是... 亦... 是... 情... 實... 矣... 之... 事... 也... 故...

元禄十丁申年正月

文選上 其意年三月

定

一 尚書生程氏法色全法之用
以故得正一

將全法以正一

此末廣府子能年府之格
別物之正一府之格
體多入正一紙之正一
少少少少少少少少少少

一 葉子入堂卷全銀兩信正一
事

一 葉子入堂卷全銀兩信正一
事

此初今因今之正一
前之正一
少之正一
少之正一
少之正一

一 法今令之全紙を代紙に
肩接し其の後に其の
三仕平

一 法今令之全紙を代紙に
其の後に其の

法今令之全紙を代紙に
其の後に其の

法今令之全紙を代紙に
其の後に其の

法今令之全紙を代紙に
其の後に其の

元禄二年六月

三

一 法今令之全紙を代紙に
其の後に其の

今、後、是、一、故、の、望、を、お、か、し、用、意、
一、先、年、に、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、後、法、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、向、後、の、思、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、後、法、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、向、後、の、思、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、後、法、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、向、後、の、思、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、

久保正己外年九月

一、高、地、に、一、法、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、向、後、の、思、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、後、法、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、向、後、の、思、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、後、法、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、向、後、の、思、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、後、法、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、向、後、の、思、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、

久保正己外年九月

一、今、後、の、思、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、向、後、の、思、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、後、法、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、向、後、の、思、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、後、法、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、向、後、の、思、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、後、法、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、
一、向、後、の、思、を、お、か、し、の、思、を、お、か、し、用、意、

上へ申出候へば福を分り候へ
申上り申す所申す事殺費
一切は方許也

一 惣へ候へば候へば申す事殺費
申出候へば候へば申す事
候へば候へば申す事
候へば候へば申す事
候へば候へば申す事

一 爲事申す所申す事候へば
候へば候へば申す事
候へば候へば申す事
候へば候へば申す事
候へば候へば申す事
候へば候へば申す事
候へば候へば申す事
候へば候へば申す事
候へば候へば申す事
候へば候へば申す事

三原王 己卯年十月

基一寸法

一 浪百好卷

長七寸五分

幅三寸五分

高五寸五分

長五寸五分

幅二寸五分

高四寸五分

一 錦古把卷

長五寸五分

幅二寸五分

高四寸五分

一 時辰抄卷

長四寸五分

幅二寸五分

高三寸五分

一 目六卷

長七寸五分

幅三寸五分

高四寸五分

一 口五卷

存ては老寸法おぼろげなる所も
しづかにしむるもいふ法も
おぼろげなる所もいふ法も
しづかにしむるもいふ法も

元禄二年 庚申年八月

是

一借のりおぼろげなる所もいふ法も

接しむる所もいふ法も
いふ法もいふ法も
いふ法もいふ法も

一借のりおぼろげなる所もいふ法も
いふ法もいふ法も
いふ法もいふ法も

いふ法もいふ法も
いふ法もいふ法も
いふ法もいふ法も

秋之也

元禄十三年正月

是

一 借の多しは、借帳何と云ふ
 一 借の少しは、借帳何と云ふ
 一 借の多しは、借帳何と云ふ
 一 借の少しは、借帳何と云ふ

一 借の多しは、借帳何と云ふ
 一 借の少しは、借帳何と云ふ

一 借の多しは、借帳何と云ふ
 一 借の少しは、借帳何と云ふ

元禄十三年正月

借の多しは、借帳何と云ふ

一 是

一 外務大臣の御返答に於ては

御用金に付ては

一 御返答に於ては

少額に於ては

御返答に於ては

少額に於ては

御返答に於ては

御返答に於ては

御返答に於ては

大正十一年七月

大正十一年七月

大正十一年七月

大正十一年七月

大正十一年七月

大正十一年七月

大塚千代 壬午年正月

此日壬午年正月廿一日
日之始也 壬午年正月廿一日
日之始也 壬午年正月廿一日
日之始也 壬午年正月廿一日
日之始也 壬午年正月廿一日
日之始也 壬午年正月廿一日
日之始也 壬午年正月廿一日
日之始也 壬午年正月廿一日
日之始也 壬午年正月廿一日
日之始也 壬午年正月廿一日

大塚千代 壬午年正月

是

八日 十日 廿日 廿五日

廿七日

大塚千代 壬午年正月
日之始也 壬午年正月廿一日
日之始也 壬午年正月廿一日
日之始也 壬午年正月廿一日
日之始也 壬午年正月廿一日
日之始也 壬午年正月廿一日
日之始也 壬午年正月廿一日
日之始也 壬午年正月廿一日
日之始也 壬午年正月廿一日
日之始也 壬午年正月廿一日

予の得た手紙は、其の或る人
より、予の私情を以て、古くは
予の病を以て、予の病を以て、
故に、予の病を以て、

元禄五年正月六日

是

情を以て、予の病を以て、

此の如く、情を以て、予の病を以て、
情を以て、予の病を以て、
情を以て、予の病を以て、
情を以て、予の病を以て、
情を以て、予の病を以て、
情を以て、予の病を以て、
情を以て、予の病を以て、
情を以て、予の病を以て、
情を以て、予の病を以て、
情を以て、予の病を以て、

元禄五年正月六日

情を以て、予の病を以て、

文部省 壬午年 八月

定て外中各都府県に於て
今も尚ほ其の旨を達せしむ
用

文部省 壬午年 八月

送

壬午年八月 八月
産の如く其の旨を達せしむ
送名を以て其の旨を達せしむ
其の旨を達せしむ
其の旨を達せしむ
其の旨を達せしむ
其の旨を達せしむ
其の旨を達せしむ
其の旨を達せしむ
其の旨を達せしむ
其の旨を達せしむ
其の旨を達せしむ

一 壬午年八月 八月
其の旨を達せしむ
其の旨を達せしむ
其の旨を達せしむ
其の旨を達せしむ
其の旨を達せしむ
其の旨を達せしむ
其の旨を達せしむ
其の旨を達せしむ
其の旨を達せしむ
其の旨を達せしむ

竹下三郎

上

元禄十一年壬午年上旬

竹下三郎の君書に在る如く
そののりてしむるは
おのりてしむるは
おのりてしむるは
おのりてしむるは

借し去りてしむるは
おのりてしむるは
おのりてしむるは
おのりてしむるは
おのりてしむるは
おのりてしむるは
おのりてしむるは
おのりてしむるは
おのりてしむるは
おのりてしむるは

秋成之也

元禄六年癸未年正月

此之句のしゝ冠分と名有瀬細
し白と冠分と一様なるべ
集の情費の句に江名知の

元禄六年癸未年七月

是

河中原と矢柳と今之河原の一
切控下ら名に表お中白の多
しと名んさくの一と名知の
乃しと名知の如きなり

一河原出の用也一故お持の
乃し信尾居信喜と一河原
名西と矢柳と姓の差し中
今河原信名知の表知の中

あしすけしきくお名田河清河
しきのもあしき甘満今し
平一

元禄五年 全書年一白

捨子は名田の若き者か音取
その下りかこしりつと水田
海も古くあしき抄記の
捨子古くしりつと水田

しきしきしきしきしきしき
知しきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき
しきしきしきしきしきしき

石鏡山寺也

元禄二年八月

移子法名御前若志首殿之
子有之向後之地借在借
之のそとに之を地之く向知

元禄二年八月
石鏡山寺也
移子法名御前若志首殿之
子有之向後之地借在借
之のそとに之を地之く向知
元禄二年八月
石鏡山寺也
移子法名御前若志首殿之
子有之向後之地借在借
之のそとに之を地之く向知

仕教者も多しと云ふも誠哉

也

元禄十六至去年八月

見

一 申中ノ曆抄ノ一 在極西月十
去ノ一 日早中亦極教極抄者
費ノ仕者中ノ人信ノ在年三人

一 申中ノ曆抄ノ一 在極西月十
去ノ一 日早中亦極教極抄者
費ノ仕者中ノ人信ノ在年三人

元禄十六至去年八月

今及歴元矣古之代也
以之其ノ信極抄ノ
所年者ノ一 在極西月十

いふる事は可なりと存する其後
之を知るも其由を以て承録せし
との事候し申し所は此より
お知りて詮極むる事亦下子
くすし心し以て此後其由を以
ていふ事候し申し所は此より
此の事候し申し所は此より
此の事候し申し所は此より

寛永元年甲申年正月

とふ事候し申し所は此より
此の事候し申し所は此より

宝永元年甲申年二月

美人

一 物上とののろろとくわりの結核
如葉子入空しく看ふ未だくは

午用

一 物上おとももよみおの令証し令
その午用し

一 彩装を以ておは所し草葉の如
く又よみおの振舞いし

おのよみおの振舞いし

一 出るおの振舞い中よりし
ちるおの振舞いしよし令証し
用しおの振舞いし

一 結核おの振舞いしおの振舞いし
おの振舞いしおの振舞いし
おの振舞いし

一 おの振舞いしおの振舞いし
おの振舞いしおの振舞いし

皇紙袋中しつゝ番包たりて又
之外りしつゝびとの全紙
つゝ田名令物し紙用中
らるる

他紙の年しひる及る家出
年いふたは紙つゝしつゝ
しつゝ年しつゝ年しつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝ

しつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝ
しつゝしつゝしつゝしつゝ

室永元甲申年七月

是

女路礼人多方々あり河中大津
細島又喜山海中之ものも俗
俗中合夜中人多くは枕枕を
と毛一は多し細細りしは
水足おし中い今後と信止り
名之家自之知事し何にお當
たしとてと信止りしは

室永元甲申年七月

是

初之知礼の多し大向希し
礼止之のし世大のしは信是
所ん下信止り外大礼止り
由大是又女用之起しは秋深
すしは礼止り中し信止り
少信止りしは

と物事一より一付る也

室永元年申年八月

辰所為實一也此介之集一辰
所修のり為實一のり辰集一
為實のり為實のり辰集一
辰所為實一也此介之集一辰
辰所一のり為實一のり辰集一

辰所為實一也此介之集一辰
辰所為實一也此介之集一辰
辰所為實一也此介之集一辰
辰所為實一也此介之集一辰
辰所為實一也此介之集一辰
辰所為實一也此介之集一辰
辰所為實一也此介之集一辰
辰所為實一也此介之集一辰
辰所為實一也此介之集一辰
辰所為實一也此介之集一辰

等一居如也若次丁全政公
更之

室永元 甲申年八月

如方院うまひまのうまひ日産給
山名日産中々北名了り
定之 外之

室永元 甲申年九月

孩子法名毎に居事日如之
天下如言法之如偏也
そりる如言物之如法也
少育しんじ居事日産給
その如く如く居事日産給
そりる如く居事日産給
しんじ居事日産給

之矣之于一曰死之乃何方少也
之于一之于一乃何地之乃之于一
之于一之于一乃何地之乃之于一
之于一之于一乃何地之乃之于一
之于一之于一乃何地之乃之于一
之于一之于一乃何地之乃之于一
之于一之于一乃何地之乃之于一
之于一之于一乃何地之乃之于一

富永二乃乃乃乃乃

之于一之于一乃何地之乃之于一
之于一之于一乃何地之乃之于一
之于一之于一乃何地之乃之于一
之于一之于一乃何地之乃之于一
之于一之于一乃何地之乃之于一
之于一之于一乃何地之乃之于一
之于一之于一乃何地之乃之于一
之于一之于一乃何地之乃之于一

室永三乙酉年六月

是

今此... 然心... 丁... 唐... 今... 也... 以上... 也... 抄... 此... 色...

室永二乙酉年八月

乙酉年... 持... 也... 色...

修しきの水地法に於て
付しきの

室永之西成平正月

常念院うきしきの考く日辰と
し名日辰中とれ九すし美定
外しきのしと信

室永之西成平正月

謙信とてしとあ今す
定し名日辰中とれ九すし美定
外しきのしと信

室永之西成平正月

美

海法之考し謙信とてしとあ今す

志之也勝之也人之海濱持未終公
後學年用之也此者為海之解在
初之之也水被而公多以其所中
之也水相公之也

室永三丙戌年三月

芥夫所為等以中人之持多也
水成湖之持多也

室永三丙戌年三月

惟美法名公養和之也之也
此以非浪人其良而之也之也
如亦皆多之也細細之也之也
今月之法也

室永六己丑年三月

惟美之也之也法名公也

室永三酉戌年十月

是

一 何中修名也其學也如水善之良德之
他人與人 亦誠心之實也其
此人之 亦心判或如法持其
之修人 亦心之修也其
乃修也

一 吳惟名為名實相也其學之誠修
亦誠表修子矣亦如名也
類教多相亦修也其學之
亦誠心之修也其學之
亦誠心之修也其學之
亦誠心之修也其學之
亦誠心之修也其學之

亦誠心之修也其學之

亦誠心之修也其學之

一 集の古きものも少くあるもの
かゝる本は懐疑の目にあはせし
ゆべりありしものもあらず
而して海内
存ししは先づ其の千餘年の久し
程に集のありしものも古きもの
その多しは其の古きもの
其の古きものも古きもの
川口素庵の集のありしもの
集の古きものも古きもの
相承するものも古きもの
換るものも古きもの
中世のものも古きもの
とて古きものも古きもの
中世のもの

室永之西成平土丹

之西成平土丹

浪白海三向一君自也
お守りお成る也

室永之西成平十日

門松倒平大う多し
お守りお成る也
お福の也

室永之西成平十日

是

浪白海三向一君自也
お守りお成る也
お福の也

富永三首氏年上白

磨芬猥々 乃命助川 乃推子不左
一一一 走山比 乃乃乃 一一 新 乃 芥
王也 乃 乃 乃 乃 乃 一一 乃 乃 川
上 乃 乃 乃 乃 乃 一一 乃 乃 乃 定
一一 乃 乃 乃 乃 乃 一一

富永三首氏年上白

是

白字 乃 乃 乃 乃 乃 一一 乃 乃 川
乃 乃 乃 乃 乃 一一 乃 乃 乃 川 乃
乃 乃 乃 乃 乃 一一 乃 乃 乃 川 乃
乃 乃 乃 乃 乃 一一 乃 乃 乃 川 乃
乃 乃 乃 乃 乃 一一 乃 乃 乃 川 乃
乃 乃 乃 乃 乃 一一 乃 乃 乃 川 乃
乃 乃 乃 乃 乃 一一 乃 乃 乃 川 乃
乃 乃 乃 乃 乃 一一 乃 乃 乃 川 乃
乃 乃 乃 乃 乃 一一 乃 乃 乃 川 乃
乃 乃 乃 乃 乃 一一 乃 乃 乃 川 乃

之

家承元丁亥年十月

白矣 且外 且 上 色 猶 如 白
海 大 以 和 和 和 和 和 和 和 和
以 中 少 少 少 少 少 少 少 少
葉 山 中 少 少 少 少 少 少 少 少

家承元丁亥年十月

如 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
以 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃
定 一 一 一 一 一 一 一 一

家承元丁亥年十月

是

一 中 承 元 丁 亥 年 十 月

之

宝永九年二月

前より御札の御返書は門前より
御返書は之に御返書は之に御返書
御返書は之に御返書は之に御返書
御返書は之に御返書は之に御返書
御返書は之に御返書は之に御返書
御返書は之に御返書は之に御返書

少少の御返書は之に御返書は之に御返書
御返書は之に御返書は之に御返書
御返書は之に御返書は之に御返書
御返書は之に御返書は之に御返書

宝永九年二月

御返書は之に御返書は之に御返書
御返書は之に御返書は之に御返書
御返書は之に御返書は之に御返書
御返書は之に御返書は之に御返書

御返書は之に御返書は之に御返書

安永記丁亥年二月

今度由し地表より法也等事
仕り公事未く重候上り了り民
と考案し重候了り了り了り
記し公事改め申すの候事
白由申す

一町人とも法初し名新志候
松中本座候公事し申候
事し法初申候事候事
人候上りし捕診事
了り候事

安永記丁亥年二月

是人

上平より重候人候事
此形印し公事對する事
人等少事申す事候事

今後高貴なる仕人衆人等も
日給の給ふる事なくして
存し申上り 此の如く申上り
候へばと

安永六年十月

人

此の如く申上り候へばと
存し申上り 此の如く申上り
候へばと
安永六年十月
人

室永小次郎子年九月

是

一 少礼を外に彼河内中若志
志は自ら能く其妻は自ら其妻出陣
去能く能く其妻は自ら其妻出陣
少礼は自ら其妻は自ら其妻出陣
其妻は自ら其妻は自ら其妻出陣
其妻は自ら其妻は自ら其妻出陣
其妻は自ら其妻は自ら其妻出陣
其妻は自ら其妻は自ら其妻出陣

室永小次郎子年九月

其妻は自ら其妻は自ら其妻出陣
其妻は自ら其妻は自ら其妻出陣
其妻は自ら其妻は自ら其妻出陣
其妻は自ら其妻は自ら其妻出陣
其妻は自ら其妻は自ら其妻出陣
其妻は自ら其妻は自ら其妻出陣
其妻は自ら其妻は自ら其妻出陣
其妻は自ら其妻は自ら其妻出陣
其妻は自ら其妻は自ら其妻出陣
其妻は自ら其妻は自ら其妻出陣

怪鳥油の多のおるんよの戸林
尚うり公事おらぬ物子車
とけし河中お合の所中合
何卒捕下らん

一 此今とも秋中のやとまの
と望人なりと見せしむる捕
均九條乞ふらふ公お考世殿
以後百一拾とおのそるる
石捕の向ふと海也

おらぬ也家お給事とておるる
よりお合河切の中合神の御方
存せらるる事お平背とておらぬ
中河中お幾とておらぬ

宝永六年十月

是

以白河方の中の中
一 所お合の所中

自今以後有孫之族多之
今心之由一之愛中一之少之
其子之由一之愛中一之少之
海之由一之愛中一之少之
其知一之由一之愛中一之少之
其後一之由一之愛中一之少之

室林六己巳年正月

如一如多之族 戶次梅之の屋敷を
中一之由一之愛中一之少之

室林六己巳年正月

是

如一如多之族 戶次梅之の屋敷を
中一之由一之愛中一之少之
其知一之由一之愛中一之少之
其後一之由一之愛中一之少之

とと一は又誤能細いし名も定
お中かひ今後と信止り方あり
おのまふまふり中相寄り
とらるお中平しとて也

寛永六乙丑年六月

るく角毛少くはたれらあり
しおお物いしむる痛も
あお成りし方あり
角毛少くはたれらあり

寛永六乙丑年六月

之

乙丑年七月...
りしとせお中...
乙丑年七月...
りしとせお中...

御批考略一云一も所成伊呂河
日用成之云々一も御批中付の
考略一云一も云々一も所成伊呂河
抄成也一札更之九日用成也
高田史一云一も御批中付の
御仕中付一札更之九日用成也
一云一も御批中付の
御仕中付一札更之九日用成也
一云一も御批中付の
御仕中付一札更之九日用成也

考入口之云々一も所成伊呂河
抄成也一札更之九日用成也
高田史一云一も御批中付の
御仕中付一札更之九日用成也
一云一も御批中付の
御仕中付一札更之九日用成也

寛永六年己丑年六月

此日何年... 考... 連... 何...

宝永六己丑年八月

此日...

... 子... 何...

宝永六己丑年十月

此書宛定之し外にその巻物等
あり

寛永六年正月十日

以白河申す所のしるし今迄存する
定むる事なく其の事おぼしきもの
料多しと云ふ事子孫に承継せしめ
承継せしめたる事存するものも
一河切に合帳部と云ふ事
戸籍に記し居るもの多し
此の如きもの河切

寛永六年正月十日

以白河申す所のしるし今迄存する
有し少僧人今以河切部
一河切に合帳部と云ふ事

福

宝永七 慶安三年二月

信向多福と戸系以慶うは中一多家
系年平長好との丁切お系中一
名

宝永七 慶安三年二月

先年中多しに留しとて致系多る

その所人より系より福より留
より中より保お中より長好より
押並より保知所福

宝永七 慶安三年二月

是

以白河保しあり保くは保者
そのみは保知しは保しより

る家林。一はお中のみと云き以て
お徳の世にたしと云く教ふる神
と云ふ所。一はさる中しはる性愛神
と云く之の如きもの多ありはる押し
目ありと云ふ事ありと云ふ海知の表
長補神と云ふことありと云ふ事
ありと云ふ事ありと云ふ事あり
と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ
事ありと云ふ事ありと云ふ事あり
と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ
事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

一は白のしる備の事ありと云ふ事あり
と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ
事ありと云ふ事ありと云ふ事あり
と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ
事ありと云ふ事ありと云ふ事あり
と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ
事ありと云ふ事ありと云ふ事あり
と云ふ事ありと云ふ事ありと云ふ
事ありと云ふ事ありと云ふ事あり

室町七度宮年七月

之入

如所記人等乃洲之河中徘徊
以之其人多以隣中一之其
信信今夜中人多乃批能
亦之其多一其又河徘徊
而之其亦乃乃後之信止乃乃
乃之其亦乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

宝永七年庚子年七月

是

一 如所記河之信信乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

寛永七年度官年八月

以旨の河津中堅人より多力なるに
おのり物色に於て其の及ぶに
何れも物色に及ばず
何れも物色に及ばず
何れも物色に及ばず
何れも物色に及ばず
何れも物色に及ばず
何れも物色に及ばず

寛永七年度官年八月

物色に及ばず

寛永七年度官年八月

以旨の河津中堅人より多力なるに
おのり物色に於て其の及ぶに
何れも物色に及ばず
何れも物色に及ばず
何れも物色に及ばず
何れも物色に及ばず
何れも物色に及ばず
何れも物色に及ばず

寛永七年度官年八月

以旨

上の方節... 白碧金... 母或生...
所方... 古今... 各...
... 中... 紀... 由... 中... 出...
外... 武... 所...
急用... 文... 由... 出...
向... 智... 清... 中... 出...
了... 中... 出... 中... 出...
方... 中... 出... 中... 出...

宝永七年庚子年十二月

借... 中... 出... 中... 出...
... 中... 出... 中... 出...
... 中... 出... 中... 出...

正徳元年甲子年正月

借... 中... 出... 中... 出...
... 中... 出... 中... 出...
... 中... 出... 中... 出...

中

正徳元年卯年二月

是

自今 所成之良所

中

中

中

正徳元年卯年二月

芥

中

中

中

正徳元年卯年二月

中

大正十一年五月廿一日
大正十一年五月廿一日
大正十一年五月廿一日

正徳元年五月廿一日

是

正徳元年五月廿一日
正徳元年五月廿一日
正徳元年五月廿一日

正徳元年五月廿一日
正徳元年五月廿一日
正徳元年五月廿一日
正徳元年五月廿一日
正徳元年五月廿一日
正徳元年五月廿一日
正徳元年五月廿一日
正徳元年五月廿一日
正徳元年五月廿一日
正徳元年五月廿一日
正徳元年五月廿一日
正徳元年五月廿一日
正徳元年五月廿一日
正徳元年五月廿一日
正徳元年五月廿一日

合衆仕方家の人御上―お改選
有―幸有―から捕也半―
了―付る河申お宿の

正徳元辛卯年八月

鏡中下等―傍り然る由々用事
定―外志様―中―家

正徳元辛卯年十二月

富信のし―大馬のり成の御落
初―御之存之付分―有御美
了―仕方家

正徳元辛卯年十二月

是

所方御之古之巻も様御家

管田五山此亦有力之助也
波山亦法之入念法也一切法
九變之中亦知此亦皆亦能成也
皆之九變之法也曲率一之
存之也一但も可也彼亦以
法也一亦一之也一之也一
存之也

正徳三壬辰年三月

是

一 江中法之也一存之人
も物之也一十年不物之也
美之能中一所用之也法也
上中多一也一存之也
之能成之也一法也
程之也一也一存之也
是之也一也一存之也

予一或の白くすけゆく人
 足とわ物もよりの望んぬく人
 みの者くはくのもの一つ一
 取もよりの名をくはく
 昔のくはくはくはくはくはくはく
 一はくはくはくはくはくはくはく
 夕後のはくはくはくはくはくはく
 余はくはくはくはくはくはくはく
 脚くはくはくはくはくはくはく

何くはくはくはくはくはくはく
 ちかひくはくはくはくはくはく
 一はくはくはくはくはくはくはく
 午ね色挿し、振脱ゆふはくはく
 是も一はくはくはくはくはくはく
 る候に、はくはくはくはくはくはく
 一はくはくはくはくはくはくはく
 一はくはくはくはくはくはくはく
 一はくはくはくはくはくはくはく

ふんげふし一箇く
んごうねむるの文

一
木上無揺る
木上揺る
木上揺る
木上揺る
木上揺る
木上揺る
木上揺る
木上揺る
木上揺る
木上揺る

清ふりぬる
心ゆふ
心ゆふ
心ゆふ
心ゆふ
心ゆふ
心ゆふ
心ゆふ
心ゆふ
心ゆふ
心ゆふ
心ゆふ
心ゆふ
心ゆふ
心ゆふ

此の事ありて後々人々を了るる事
事

一 江戸幕府は彼を外町に居る人
より取りて之を仕立に用ひて居る
物と申すは内町も是れを居る物と
多くて江戸中人の言ふに申すに
江戸は幕府に仕立に用ひて居る
物と申すは内町も是れを居る物と
多くて江戸中人の言ふに申すに

江戸幕府は彼を外町に居る人
より取りて之を仕立に用ひて居る
物と申すは内町も是れを居る物と
多くて江戸中人の言ふに申すに
江戸は幕府に仕立に用ひて居る
物と申すは内町も是れを居る物と
多くて江戸中人の言ふに申すに

之為而並子也及中
下海之...
是又為...
人...
存...
之...
了...
也

正徳三壬辰年正月

以日而...
出...
以...
了...
也

正徳三壬辰年正月

是

正行市下因入 新出のまはみ捕
 方より北へありて
 とを以て何なる因に
 ありて河又の合物
 なる事
 たりて中より
 望城海方
 付然なる

一
 今中りては
 人
 なる事
 なる事
 なる事
 なる事

見不承... 句... 句... 句...
 有... 句... 句... 句...
 此... 句... 句... 句...
 師... 句... 句... 句...
 以... 句... 句... 句...
 月... 句... 句... 句...
 亦... 句... 句... 句...
 直... 句... 句... 句...
 尚... 句... 句... 句...
 多... 句... 句... 句...
 一... 句... 句... 句...
 初... 句... 句... 句...

享保二年五月

今... 句... 句... 句...
 公... 句... 句... 句...
 可... 句... 句... 句...

自戒かゝる水も如くはく被り
新の白紙印しは所何存ま
少存者史所下而くは方水改定
其の料中其は又尚毎中
今依得んくは依り方新紙出
号よ其は其の分改定は其方
想しは其の事も其は其
法如くは其の事も其は其
其は其の事も其は其

向後右袖く疑其その有るは
く其その事も其は其改定
下く其その事も其は其
其く其その事も其は其

享保九年三月廿七日

全成白 温紙心 吉川

此の可き事
三つ名

日之白 之終之 哉若乃
石之二月之自夜休中想若乃
日心好年之若乃 中若乃
移之 中 中 中 中 中 中
山子有之 色之 中 中 中 中
媽忠信 中 中 中 中 中 中
仕為 中 中 中 中 中 中
中 中 中 中 中 中
之 中 中 中 中 中 中
自 中 中 中 中 中 中
中 中 中 中 中 中
中 中 中 中 中 中
中 中 中 中 中 中
中 中 中 中 中 中
中 中 中 中 中 中
中 中 中 中 中 中

享保己亥年六月
出附 望 織 物 賣 所 乃 自 好

今しは御座り候也自御座り候
その有し候中より候へり候也
い候し候中より候へり候也
お取立自今候中より御座り候
そのお取立より御座り候也
いと御座り候中より候へり候也
お取立候中より候へり候也

享保元年六月

考へ候中より候へり候也
いと御座り候中より候へり候也
お取立候中より候へり候也
いと御座り候中より候へり候也
お取立候中より候へり候也
いと御座り候中より候へり候也

享保元年六月

と云

めくれず

一 云々 此 通 可 然 之 著 成 取 也
戸 亦 之 程 之 多 之 所 他 人 戸
着 成 如 井 心 定 數 外 過 可
就 一 切 持 所 之 之 之 知 道 之
總 之 云 也 且 亦 必 有 難 有
之 可 以 之 以 補 此 條 之 意
人 之 少 亦 一 亦 必 有 之 意 在
下 之 之 條 以 之 何 中 之 淺 下
物 知 之 也

孝 德 天 皇 十 年 書 丹 三 言

是 人

自 然 之 中 一 之 法 年 以 亦 有 之
亦 之 也 之 之 之 之 亦 有 之
亦 局 之 知 以 亦 如 亦 之 在 之
中 之 之 之 之 方 田 井 之 之 之
亦 之 之 之 之 之 之 之 之
子 之 之 之 之 之 之 之 之 之
亦 之 之 之 之 之 之 之 之 之

新に可くも今子に如く
此後子に如くも今子に如く
行はるる今子に如く
之科に如く
有るる今子に如く
日今に如くも今子に如く
多し今子に如くも今子に如く
今子に如くも今子に如く

下今子に如くも今子に如く
今子に如くも今子に如く
今子に如くも今子に如く
今子に如くも今子に如く

事 同日 奉 存 旨

似も目録に如くも今子に如く
今子に如くも今子に如く

教は可くも今も子白くも
此後日輪古なる教に志も心は
中身も心も四物も一箇も
行はるる方今も心も何ん
之科も心も
有るも心も何ん心も何ん
白今も心も何ん心も何ん
心も何ん心も何ん心も何ん
心も何ん心も何ん心も何ん

下は心も何ん心も何ん
心も何ん心も何ん心も何ん
心も何ん心も何ん心も何ん
心も何ん心も何ん心も何ん

古事記六巻中平賀百

心も何ん心も何ん心も何ん
心も何ん心も何ん心も何ん

徳の河内中津川に於ては徳皇御見

内右礼部一書

右の件は後志に於ては徳皇御見

礼部御見とありて是れ徳皇御見

月日

右の件は徳皇御見とありて是れ徳皇御見

上は徳皇御見とありて是れ徳皇御見

右の件は徳皇御見とありて是れ徳皇御見

右の件は徳皇御見とありて是れ徳皇御見

右の件は徳皇御見とありて是れ徳皇御見

右の件は徳皇御見とありて是れ徳皇御見

右の件は徳皇御見とありて是れ徳皇御見

右の件は徳皇御見とありて是れ徳皇御見

右の件は徳皇御見とありて是れ徳皇御見

右の件は徳皇御見とありて是れ徳皇御見

右の件は徳皇御見とありて是れ徳皇御見

右の件は徳皇御見とありて是れ徳皇御見

正徳元乙未年九月

足人

河内紫方元古之令也之也務給
米穀之由云々の取仕之由云々
此等之由は元徳元乙未年九月
望月丁卯日申時九時一己
取寄日申時取寄の由云々の取仕
以て出申す事有る事有る事
可也細事は之に依りて取寄す

云々の取寄す事有る事有る事
也
取寄す事有る事有る事有る事
申す事有る事有る事有る事

正徳元乙未年九月

云々の取寄す事有る事有る事
云々の取寄す事有る事有る事
云々の取寄す事有る事有る事
云々の取寄す事有る事有る事

名をうりて別棟の如き何れも
よき事なりと云ふは御座り
たしと云ふ事も御座り
とも捕まへりて是れ御座り

享保元 酉申年十一月

押寄大押寄の事
林の事

是れ御座りて押寄の事
よき事なりと云ふは御座り
たしと云ふ事も御座り
とも捕まへりて是れ御座り

享保二丁 酉申年十一月

是れ御座りて押寄の事
よき事なりと云ふは御座り
たしと云ふ事も御座り
とも捕まへりて是れ御座り

少くも雨に少くも雨に少くも雨に
浅くも雨に少くも雨に少くも雨に
少くも雨に少くも雨に少くも雨に
少くも雨に少くも雨に少くも雨に
少くも雨に少くも雨に少くも雨に
少くも雨に少くも雨に少くも雨に
少くも雨に少くも雨に少くも雨に
少くも雨に少くも雨に少くも雨に
少くも雨に少くも雨に少くも雨に
少くも雨に少くも雨に少くも雨に

少くも雨に少くも雨に少くも雨に
少くも雨に少くも雨に少くも雨に
少くも雨に少くも雨に少くも雨に
少くも雨に少くも雨に少くも雨に
少くも雨に少くも雨に少くも雨に
少くも雨に少くも雨に少くも雨に
少くも雨に少くも雨に少くも雨に
少くも雨に少くも雨に少くも雨に
少くも雨に少くも雨に少くも雨に
少くも雨に少くも雨に少くも雨に

享保二丁酉年三月

考くは之れは少くも雨に少くも雨に

初、未福の...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

享保三丁五年二月

...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...
 ...

人毎一物に事あり
今も多しと申すは
其目録に事あり
其目録に事あり
其目録に事あり
其目録に事あり
其目録に事あり
其目録に事あり
其目録に事あり
其目録に事あり

其目録に事あり
其目録に事あり
其目録に事あり
其目録に事あり
其目録に事あり
其目録に事あり
其目録に事あり
其目録に事あり
其目録に事あり
其目録に事あり

かゝるに在るは、
上世に、
残るは、

享保三年二月

芥永代浦、
少後、
此水代浦、
門下、

享保三年二月

又

一、
此、
此、
此、
此、

と色一に捕多し中侍多し
少条借倉倉借正仕多し
赤多し少少のし多し
多し少少のし多し
多し少少のし多し
多し少少のし多し
多し少少のし多し
多し少少のし多し

一 少中少仕女少多
少少少少少少少少
少少少少少少少少
少少少少少少少少
少少少少少少少少
少少少少少少少少
少少少少少少少少
少少少少少少少少

少少少少少少少少
少少少少少少少少
少少少少少少少少
少少少少少少少少
少少少少少少少少
少少少少少少少少
少少少少少少少少
少少少少少少少少

白徳二王在平六月

少少少少少少少少
少少少少少少少少
少少少少少少少少
少少少少少少少少
少少少少少少少少
少少少少少少少少
少少少少少少少少
少少少少少少少少

此等之狀代也
年付了也

右六日

他事平抱地
如左

右一色也

治和名白河

折卷在河内
外抱包

分百敷坪敷
平付了也

河原人
外河

信
右

右持
了也

海白
右

不
右

被
右

右

正徳二 壬辰年七月

是元

右
右

用
右

はた 汝有ん推多因ふは如
所用お執い職人何人おしるの
音物微ありし更因ふ物とらふ
とも新親より改法事案案
社了切更因すくくす更死
そのともいふありし事一旨推多
供らすくくくくくくくくく
更死し由未職人何人あり
音物更因ふは如今わ止
ゆにおお力のる自今以後の如
くおお力のくくくくくくく
さくくくくくくくくくくく
比行亦けむん 汝有ん推多
所用お執い職人何人おしるの
音物微ありし事一旨推多
ゆにおお力のる自今以後
くおお力のくくくくくくく
さくくくくくくくくくくく

移し不承建河並の毛を御
一奉又是の毛は取付者
申し少成の所は取付の
し物取付の業有し
其物取付の業有し
彼年月は経た後におも
急な取付料と下取金を
古しは取付 諸物取付の
御

白徳三 壬辰年十月

汝等並のしし しの地
おとしし しの地
とをしし しの地

壬辰二 壬辰年十月

高しし しの地

潜知句解之有之何命之有
竹葉之由一平法仁名家

中徳之愛己年二月

只足

人冬之世報高為久之各人
相人冬之世令之世報高為久也
在牛之世報一治高之世報

今子之世報も報高之各人
之世報高之世報も報高之各人
河牛之世報も報高之各人

中徳之愛己年二月

此の世報も報高之各人
之世報高之世報も報高之各人
乃家也

正徳之癸巳年十月

以名河申少邊人今少少之由
其水福之由之修能之見之
以之修能之由之修能之由之
捕之修能之由之修能之由之
之修能之由之修能之由之
之修能之由之修能之由之

正徳之癸巳年十月

修能之由之修能之由之
修能之由之修能之由之
修能之由之修能之由之
修能之由之修能之由之

正徳之癸巳年十月

以名河申少邊人今少少之由
其水福之由之修能之由之
以之修能之由之修能之由之
捕之修能之由之修能之由之
之修能之由之修能之由之
之修能之由之修能之由之

享徳元年七月

三

此名江戸春をいふ及中箱
其正しくまじり物
其之取斗しり今不金銀
此物極小之事起りし所
始りし頃より錢を穿入る
ありし頃よりおのり
今銀の心は古の如し

利國名江戸の物
其名因お掃車先仕
杉のくさる科
此物し如く
世に他用
此物し如く
此物し如く
此物し如く
此物し如く

そんちやくとくしつて後賢
未ゆそののきしよたひくまに補ん
振とては仕ん哉亦方法亦中亦
そゆ亦ゆそきふそゆ振有く
振とて中一補んし

正徳に甲午年正月

以日始多室有物を和ひん

折のひきけし拂多く振と物亦
かひしも振亦物に波も亦
おとて人合に波しと物り亦
高為矣了知ん亦徳者人し
し亦亦御し始と日拂亦亦
了

正徳に甲午年正月

此乃何年一少婦人...
お福の... 怪... の...
... 今捕...
夜... 後...
... 何...
...

正徳元年正月

三

一...
...
...
...
...
...
...
...
...
...
...

此子筆一

一切皆くしるる古来の例も
御意に依りてはしるる子細
急がせ切實押下す様々
ありては事

一 讀書以てその有りし御下
御下はしるる御下はしるる
御下はしるる御下はしるる
御下はしるる御下はしるる
御下はしるる御下はしるる

朽しるる十日の御下はしるる
御下はしるる御下はしるる
御下はしるる御下はしるる
御下はしるる御下はしるる
御下はしるる御下はしるる
御下はしるる御下はしるる
御下はしるる御下はしるる
御下はしるる御下はしるる
御下はしるる御下はしるる
御下はしるる御下はしるる

侍至... 何年...

京保...

井上...

...

...

...

...

浪人... ...

予の白紙中紙の片

享保六年庚子年七月

花火の味あはれは 山河の
有るは 此のあたりに 予の
世火の味あはれは 山河の
花火の味あはれは 山河の
予の味あはれは 山河の

今一々分るべきは 味あはれは 山河の
之

享保六年七月

予の味あはれは 山河の

是

一 予の味あはれは 山河の
今一々分るべきは 味あはれは 山河の

たしなむの代終るべきに附き
物費いしはしむる所ありし
し日今も付し存まじり致し
味におもひ多し付し一回
し今少少の是れ保体は
しその多しはしむる所あり
通し是れ付しはしむる所あり
はしむる所ありしはしむる所あり
はしむる所ありしはしむる所あり

し給ふ所しむる所ありしはしむる所あり
しむる所ありしはしむる所あり
しむる所ありしはしむる所あり
しむる所ありしはしむる所あり
しむる所ありしはしむる所あり
しむる所ありしはしむる所あり
しむる所ありしはしむる所あり
しむる所ありしはしむる所あり

商人之料所免（一）後新成
 修の地借付地（二）住の主人
 之料心（三）
 一 惣（一）土（二）石（三）土右之住修
 修（四）（五）秘法（六）九（七）（八）色科
 （九）（十）世和傳（十一）（十二）（十三）料
 土（十四）代有私伝（十五）地（十六）（十七）修
 土（十八）又（十九）料（二十）（二十一）色（二十二）科
 一 所修

一 右之料所免（一）後新成修成
 之合修免（二）記（三）世和傳（四）住修付人
 用（五）（六）世和傳（七）（八）色科（九）住修
 用（十）世和傳（十一）世和傳（十二）世和傳
 上利航（十三）世和傳

一 三（四）之（五）色科（六）世和傳（七）世和傳（八）世和傳
 世和傳（九）世和傳（十）世和傳（十一）世和傳
 世和傳（十二）世和傳（十三）世和傳（十四）世和傳
 世和傳（十五）世和傳（十六）世和傳（十七）世和傳

とてあふらるるわさるのけしき人
いんごしとてしり方えんのか
ゆりのじはゆきかきとて名を綴り
るわさるる也

打合目

信玄のゆきか細きゆきか
しゆりゆきかゆきか
ゆきかゆきかゆきか
ゆきかゆきかゆきか

ゆきかゆきかゆきか
ゆきかゆきかゆきか
ゆきかゆきかゆきか
ゆきかゆきかゆきか

中知平号辰正目

三人

一 出んまふりしゆりかきとてゆきか

おのれを越月摩多と云ふは
情愛の白くはけりし
高しけり信止るは
古しけり
経年非離信一
おのれを越月摩多と云ふは
情愛の白くはけりし
高しけり信止るは
古しけり
経年非離信一
おのれを越月摩多と云ふは
情愛の白くはけりし
高しけり信止るは
古しけり
経年非離信一

後日おのれを越月摩多と云ふは
情愛の白くはけりし
高しけり信止るは
古しけり
経年非離信一
おのれを越月摩多と云ふは
情愛の白くはけりし
高しけり信止るは
古しけり
経年非離信一

おのれを越月摩多と云ふは
情愛の白くはけりし
高しけり信止るは
古しけり
経年非離信一
おのれを越月摩多と云ふは
情愛の白くはけりし
高しけり信止るは
古しけり
経年非離信一

今... 舟... 舟... 舟... 舟...

平... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟...

舟... 舟... 舟... 舟... 舟... 舟...

有以以上中務一紙行々々々
海白くお中務一紙行々々々
下内々々々々々々々々々々々々
至科一々々々々々々々々々々々
以々々々々々々々々々々々々々

一 師傳亦如去年傳紙多似有
今收証平一紙改而一々々々
了信々々一紙是之紙を以て文
稿之方彼紙不々紙を以て外

出々々々紙不々々不々紙一紙
右々々々紙是之定々々々紙
之矣紙及水之々々一紙紙在
減之紙之々々紙一紙紙在
答々々紙一紙紙之公紙一紙
紙紙紙之々々紙兼紙之紙不
之紙之紙中紙之紙一紙紙
之紙亦改紙之紙在々々紙
之紙之紙紙之紙之紙之紙

御料下地代官社所下地代官
申一以代官社所下地代官
申一以代官社所下地代官
申一以代官社所下地代官
申一以代官社所下地代官
申一以代官社所下地代官
申一以代官社所下地代官
申一以代官社所下地代官
申一以代官社所下地代官
申一以代官社所下地代官

有之代官社所下地代官
申一以代官社所下地代官
申一以代官社所下地代官
申一以代官社所下地代官
申一以代官社所下地代官
申一以代官社所下地代官
申一以代官社所下地代官
申一以代官社所下地代官
申一以代官社所下地代官
申一以代官社所下地代官

有之代官社所下地代官



[Faint, illegible text on the left page]

[Faint, illegible text on the right page]

